

ことばの教室だより

白岡市立篠津小学校 令和2年12月号

ことばを育む

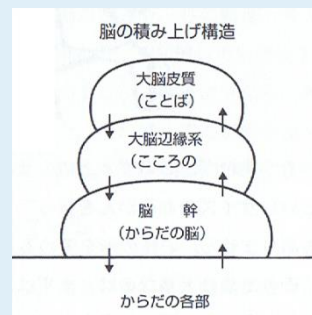
ことばがはっきりしない、ことばが繋がらないなど、ことばについての相談を受けることがたくさんあります。学校生活を送ったり、人とコミュニケーションをとったりする上で、ことばは重要な役割を果たしているのです。とても気になる場所ですね。改めて、ことばについて考えてみたいと思います。

脳の積み上げ構造

お正月の重ね餅を想像してみてください。

- 1番下のお餅は「『からだ』をつかさどる脳」
- 2段目のお餅は「『こころ』をつかさどる脳」
- 1番上にのるおみかんは「『知力』や『ことば』をつかさどる脳」

早手回しに、大きくて上等なおみかんを買ってきても、お餅の大きさがSサイズだったり、つきたてで柔らかかったりすると、のせることができません。無理にのせると転がり落ちたり、やわらかいお餅がつぶれたりするかもしれません。「早く」「大きな」おみかんを！と焦るより、まずは大きなしっかりしたお餅をこしらえることが大切です。



ことばを書くこと

音声言語	音のレベル
就学前	単語音のレベル
	文のレベル
	文章のレベル
文字言語	文字のレベル
就学後	単語文字のレベル
	文のレベル
	文章のレベル

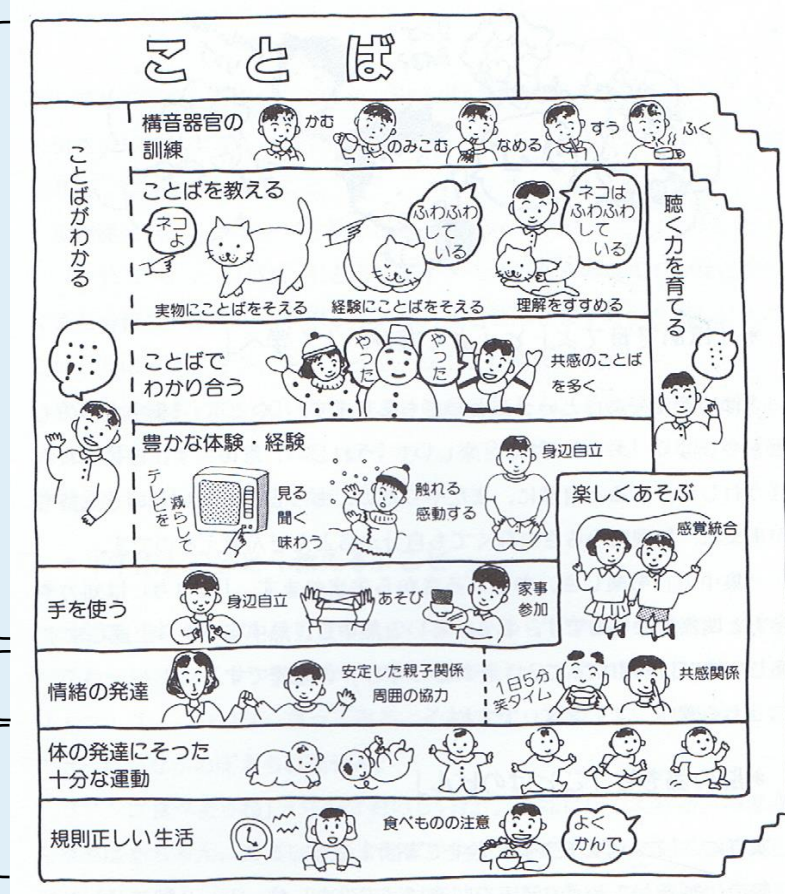
子どもは、音を聞くことから始まり、それを自分で表現していくようになります。その後、単語→文→文章と、徐々に音の大きな固まりを理解したり表現したりできるようになっていきます。この「聞く、話す（音声言語）」のほか、就学後に「読む、書く（文字言語）」の学習が始まります。音声言語の時と同じように、文字→単語→文→文章と徐々に進んでいくのです。すんなりと進んでいくお子さんもいるし、一つ一つのレベルアップに時間のかかるお子さんもいます。「文章を書く」のは最終レベルのとても難しいことなのです。参考文献『長所活用型指導で子どもが変わる』藤田和弘監修 図書文化

脳の働きとことばのビル

大脳皮質
「知力」や「ことば」を働かせるところ

大脳辺縁系
「こころ」の働きの元じめ

脳幹
「からだ」の動きや生命の働きをつかさどるところ



脳の仕組みとことばの発達を関連づけると、上のような「ビル」に例えて説明することができます。「ことば」だけにとらわれるのは、いきなり一番上の階をつくろうとするようなものになります。まずはビルの土台となる「規則正しい生活」や「体の発達に添った十分な運動」があり、これらの基礎づくりに力を入れることが、しっかりとしたことばづくりにつながります。次は「情緒の発達」で、楽しい食事、嬉しい遊び、おもしろい体験、自分の気持ちをわかってもらえる安心感、大好きな人がいる喜びなどがこころを育てていきます。最上階の「ことば」が豊かなものになるためには、こうしてじっくりビルを建てていくことが大切なのです。

簡単なように感じられますが、実はとても高次な脳機能である「ことば」。生活の中で少し意識するだけでも変化があるかもしれません。できることから少しずつ実行してみましょう。

参考文献 『ことばの遅い子』中川信子著 ぶどう社

長い2学期、みなさんととても頑張りました。発音の誤りが改善して卒業したお友達もいます。冬休みは、かるたやしりとりなどのことば遊びもぜひ楽しんでみてくださいね。



白岡市教育委員会
0480-92-1111 (代表)
篠津小学校ことばの教室
0480-91-0017 (直通)

